



済生会

わかやま

NEWS

第5号

発行日: 2005.5

～患者様の権利～

- 1、患者様は、平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
- 2、患者様は、医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
- 3、患者様は、検査・治療等に際してそれを受けることを自己の判断のもと承諾あるいは拒否する権利があります。
- 4、患者様は、医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
- 5、患者様は、自己の病状についての情報を得る権利があります。
- 6、患者様は、自己の病状についての個人的情報の秘密を守られる権利があります。

— Information —

当院は平成15年10月現地に移転し、早1年半が経ち一応の落ち着きを取り返しました。しかし、まだまだ課題を残しており、その課題のひとつに電子カルテ・オーダリングシステムがあります。

昨今、IT化が叫ばれ医療現場においても例外ではありません。当院も移転時、オーダリングシステムを導入いたしました。当初は、患者さんの検査や外来の予約、薬の処方などをコンピューターへ入力することから始めました。昨年4月から外来は電子カルテ（完全なフィルムレス、ペーパーレスではありませんが）へ移行いたしました。さらに、病棟においても電子カルテを始めるために、看護支援システムを使い経過表（体温、脈拍、血圧、食事量など）をベッドサイドで看護師が端末機から入力を始めました。

電子カルテ導入は効率の良さだけでなく、医療の質の向上、カルテ開示の際見て分かりやすいなどの利点があります。また、より適切な治療法を選べ、医療事故防止にもつながると言われ、データの蓄積によって「医療の標準化」も容易になるのではと期待されています。

ここで電子カルテ導入にあたり忘れてはならない大切なことをもう一度再確認する必要があります。第一に器械に操られてはなりません。特に外来では医師はコンピューターの画面やキーボードに気をとられ、患者さんの目を見て会話をするという一番基本的なことを忘れがちです。患者さんと医療スタッフが情報を共有することにより患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供するために電子カルテを活用する必要があります。次に問題になるのが情報の共有化と矛盾することですが個人情報保護の問題です。4月から個人情報保護法が施行され、個人情報の保護対策に万全を尽くし、患者さんに不安をもたせることがあってはならないと考えます。

現状の電子カルテにはソフトの問題があって不便な点多々ありますが、病院運営にあたり電子カルテ・オーダリングシステムの円滑化が不可欠な要素と考えますので、今後も完全な電子カルテ化へ向けた取り組みを続けていきたいと思っております。

最後に、今年9月4日に開催されます第6回和歌山救急・災害医療研究会は当番のためその準備をすすめています。今後30年以内に東南海・南海地震の発生確率は約50%～60%程度、その規模はM8以上で、阪神・淡路大震災の5～10倍もの威力に相当すると予想されています。特別講演とシンポジウムで地震発生時の医療体制について議論していただこうと考えています。たくさんの御参加をお待ち致しております。

副院長 山本勝廣



腎センターのご紹介

腎センター部長 松尾 恒久

済生会和歌山病院は大正2年に和歌山市診療所として開設され、その後保存期腎不全、末期腎不全の管理のため腎センターが開設されたのは昭和54年5月にさかのぼります。

以後増改築を繰り返し、老朽化が著しく皆様にもご迷惑をおかけしていましたが、一昨年10月済生会移転とともに新しい透析室に生まれ変わりました。

旧済生会病院の時より総合病院として保存期腎不全、末期腎不全の患者と共に消化器系、心血管系などの合併症を持つ腎不全患者も受け入れていましたが、さらに安全、適切な透析を受けていただけるよう、透析ベットは22床を有し、その内完全個室を1床設け個人用透析機も全部で4台設置し、術後を含めた重症患者にも対応可能となっております。

また、新規透析導入の原疾患として増加の一途をたどる糖尿病性腎症由来の透析患者に対しても、糖尿病内科専門医の協力により安定した糖尿病管理、合併症管理が得られるようになりました。

今後さらに地域医療に貢献できるよう活動してまいります。
(2004年の件数は12月13日、現在の数値です)



看護部のご紹介

総看護師長 半田 ツユ子

看護で選ばれる病院を目指して

平成16年度は、自然災害が多く災害医療の整備や地域医療との連携の重要性を改めて感じました。病院の中も、病院機能評価受審や電子カルテの一部導入などめまぐるしい1年でした。これらのことから平成17年度は、地域との医療連携はもちろんのこと、看護においても「行動」の年と目標が明確になりました。

病院の理念である、地域社会に、親しまれ、信頼され、働きがいと誇りを持てる病院造りのために、看護部では、「看護で選ばれる病院を目指して」をモットーに看護職員一人一人が、看護に誇りを持ち、済生会和歌山病院に愛着を持って働ける環境をと考えています。「医療に対する不安に看護者として何をすべきか」を、自分があるいは、家族が患者だったらと身近に置き換えて考え、患者様の立場を理解し応えていきます。

地域の皆様方に建設的なご意見をいただき、それを糧に前進していきます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



第6回和歌山救急・災害医療研究会 開催のお知らせ

日時：平成17年9月4日（日）
午前9時30分～午後5時00分
会場：JAビル 5階大ホール
和歌山市美園町5-1-1 TEL073-426-8100
(JA和歌山駅より徒歩3分)

第6回和歌山救急・災害医療研究会当番世話人
井 関 良 夫 (済生会和歌山病院長)

内容：◇一般演題（公募） 締切り 平成17年5月31日（火）
◇特別講演
“わが国における災害医療対策（仮題）”
◇シンポジウム（指定）
東南海・南海地震発生時の災害医療体制は？
共催：和歌山県医師会

リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科技師長 南 和幸

当科では、理学療法部門と作業療法部門があります。スタッフは医師が1名、理学療法士が6名と作業療法士が2名、マッサージ師が2名配属されています。

理学療法部門では整形外科疾患・脳神経外科疾患を有する患者様を中心に、運動療法と物理療法（温熱・電気などを利用した療法）があり、患者様の身体機能の改善と歩行を中心とした移動手手段の獲得を目指しています。

作業療法部門では脳神経外科疾患・整形外科疾患を有する患者様を中心に、作業活動（物品操作や手工芸）を通して、患者様の身体機能の改善を図ることと、日常生活動作（ADL）の練習により日々の生活能力の向上を目指しています。

理学療法部門・作業療法部門とも完全担当制とし、各技師とも担当患者様の能力を把握しその方に適したプログラムを提供できるよう努めています。

また、当院6階の回復期リハビリテーション病棟に関しても理学療法士3名と作業療法士1名が病棟の担当となり、病棟の医師・看護師との情報交換を密にとり、より一層生活に密着したリハビリテーションサービスの提供に勤めています。



地域医療連携室から

地域医療連携室 主任 上野山 勝代
岩崎 ルリ

平素は地域医療連携室をご利用頂きありがとうございます。

先日紹介患者様の待ち時間を調査しましたところ

地域の先生方よりFAX又は電話にて予約済の患者様の平均待ち時間 … 約27分

” ” 予約無しの患者様の平均待ち時間 … 約49分

となりました。先生方にはご面倒ですが前もってFAX又は電話での予約を頂き、紹介患者様の待ち時間を少しでも短縮できるよう取組んでいきたいと考えてます。

【地域医療連携室利用紹介患者数】

平成16年12月…116人 平成17年1月…160人 2月…158人 3月…166人
のご利用頂きありがとうございます。

*今回より地域の先生方のご紹介をさせていただきます。

太田クリニック 太田 久雄先生

遠い昔、昭和49年の春から私は済生会和歌山病院外科に勤務しました。海草橋のそばに時代物の木造病室が残っていた頃で、新築移転した現在の病院と比べると隔世の感があります。途中1年間、大学病院に勤務し再び戻って昭和63年12月まで、足かけ14年間お世話になりました。今では、ぎしぎし鳴る廊下や、結核病棟のクレゾールの臭いが懐かしい思い出になっています。

退職して約1ヶ月後に開業しました。同時に昭和の時代が終わって年号が変わりましたので診療所は平成と共に時を過ごしています。

済生会和歌山病院が市の中心部に移転してからは患者さんの利便性が高まり、紹介がスムーズに行えるようになり喜んでおります。また、地域医療連携室が設立され、ここが窓口となってから患者さんの紹介がさらに簡単で楽になり非常に助かっています。

これからも病診連携を進め、地域医療の充実に貢献されるようお願いいたします。



濟生会和歌山病院外来診療予定表

(平成17年5月1日現在)

	内科・糖尿病・内分泌・消化器科			循環器	放射線	外科・心臓血管外科		整形外科			脳神経外科	耳鼻咽喉科	腎センター	眼科	皮膚科
	2診	3診	4診			1診	2診	1診	2診	リハビリ					
月	午前 山原	佐藤	井関	木村	—	重里	川後	松崎	山崎	南	松本	林	松尾谷	荒井	山本
火	午前 文野	江川		山本	—	駒井		南	勝田	山崎	仲	林	松尾谷	荒井	—
水	午前 山原	川口		阪井	野村	重里	川後	新患診		西田	松本	医大医師	松尾谷	荒井	—
木	午前 文野	江川	井関	木村	—	駒井		松崎	南	勝田	仲	林	松尾谷	荒井	廣井
金	午前 川口	佐藤		山本	—	川後		山崎	勝田	松崎	中川	林	松尾谷	宮崎	—
土	午前	当番医		木村 阪井	—	特殊外来		当番医			当番医	2,4週 林 1,3週 医大医師	当番医	荒井 (第2・4)	—

肝臓病教室

場所：濟生会和歌山病院 7階 多目的ホール
 時間：第3土曜日 午後2時～
 参加費：無料

C型肝炎教室

月日	担当
5月21日(土)	内科医師 看護師

肝硬変教室

月日	担当
6月18日(土)	医師
7月16日(土)	臨床検査技師 看護師
8月20日(土)	薬局 リハビリテーション科
9月17日(土)	栄養管理課

※都合により、日程の変更場合があります。

糖尿病教室

日程：偶数月の第3木曜日・金曜日(2日間)
 場所：濟生会和歌山病院 7階 多目的ホール
 時間：午後2時～午後3時30分

研修会

第22回 和歌山東臨床研究会・症例検討会

- 日時 平成17年6月11日(土) 午後3時～
- 場所 濟生会和歌山病院 7F講堂

参加ご希望の方は地域医療連携室までご連絡下さい



診療案内

診察日：月～土曜日
 受付時間：午前8時45分～午前11時(但し、予約患者様はこの限りにあらず)
 休診日：日・祝祭日(年末年始)
 面会時間：月～金曜日 午後2時～午後7時 土・日・祝祭日 午前10時～午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187